

# 令和5年度 第1回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 2023年4月27日（木） 14時から16時
2. 開催場所 天竜中学校2階被服室
3. 出席委員 米山英二、齋藤 誠、鈴木滋芳、鈴木景子、中村まゆみ  
（敬称略） 匂坂典男、西尾和史、伊藤武司、伊藤太一（CSコーディネーター）
4. 欠席委員 木戸京子
5. 学 校 野秋愛美（校長）、神谷利之（教頭）、山城百孝（教頭）、袴田敦士（生徒指導主事）  
鳥居ひろみ（2年学年主任）佐野正已（校務アシスタント/CSディレクター）
6. 傍聴者 なし
7. 会議録作成者 CSディレクター 佐野正已
8. 会長挨拶

今日は今年度第1回の学校運営協議会で任期3年の2年目にあたる。この協議会で決めた事を委員の方でもサポートしていきたい。（鈴木（滋）会長）

## 9. 学校長挨拶

令和5年度がスタートして3週間が経過した。各学年は主任を中心にまとまって授業を進めている。また今年の1年生は大変元気が良い。先週は3年生の修学旅行で京都・奈良に行ってきた。

別件だが昨年の第1回学校運営協議会に出席していただいた木戸委員は、昨年体調を崩し現在も病気療養中とのことで、委員を辞退したいとの申し出があった。残念ではあるが退任を受け入れた。後任は保護者世代を希望している。今後人選作業を進めていきたい。今年度も引き続きよろしくお願ひしたい。（野秋校長）

## 10. 司会から経過説明（神谷教頭）

### ・委員の交代について

退任：渡邊委員（中野町地区連合自治会会長退任）、木戸委員（体調不良）、小枝委員（業務多忙）  
新任：齋藤委員（新中野町地区連合自治会会長）伊藤武司委員（新PTA副会長）

\*小枝委員の後任：元PTA会長の匂坂委員に委員継続をお願いした。

木戸委員の後任は後日人選とする。

・学校運営協議会の要点説明：運営協議会規則の主な部分（色付け部分）を説明、資料参照（神谷教頭）

## 11. 会長の選出及び副会長の指名

会長は昨年度同様引き続き鈴木滋芳さんをお願いすることで全員異議なく、これを承認した。

副会長は会長の指名により今年度就任したPTA会長の西尾和史さんをお願いすることとした。

## 12. 議長の選出

議長は引き続き鈴木滋芳さんをお願いすることで全員異議無くこれを承認した。

## 13. その他の事項

・昨年度第4回の議事録の報告 <詳細略>

・令和4年度学校運営協議会の自己評価表の説明 <詳細略>（神谷教頭）

14. 協議事項 (1) 学校運営の基本方針について 野秋校長
- (2) いじめ防止対策 生徒指導主事
- (3) 職場体験 2年学年主任
- (4) 学校部活動の地域移行について 野秋校長
- (5) 夢育やらまいか事業 神谷教頭
- その他 (1) 生徒のボランティア活動参加について

## (2) 通学用カバンの変更について

### 15. 会議記録

司会の神谷教頭から、委員総数 10 人のうち 9 人の出席があり、過半数に達しているため、会議は成立の旨報告があった。

#### (1) 学校運営の基本方針について (野秋校長)

参考資料 令和 5 年度 浜松市立天竜中学校グランドデザイン

令和 5 年度 第 1 回学校運営協議会 令和 5 年 4 月 27 日 (木)

○上記資料を使って学校経営の基本方針について説明。昨年度これらの資料を使って説明させていただいたが、大きく変わった所はない。<詳細略> (野秋校長)

- ・ (教育は) 先生にとってもなかなか大変な事だとは思いますが、地域にとっても子どもは宝。「地域で子どもを育てること」を意識して引き続き支援していきたい。(米山委員、齋藤委員)
- ・ 「15 歳の志」を目指して「13 歳の自律」「14 歳の挑戦」とわかりやすい表現だと思った。多様性の中にあって子どもをしっかり見ていこうという事で大変いい。(鈴木(景)委員、中村委員)
- ・ 昨年 1 年間 P T A として子供達を見てきたつもりだ。今年度も経営方針を変えずに継続して進めていただけるとのことなので、引き続き見守ってきたい。(匂坂委員)
- ・ 親にとっても解りやすい学校経営方針をたてていただいた。大変ありがたい。(伊藤(武)委員)
- ・ 昨年設定された学校経営目標に向かっていくということで先生方も大変だとは思いますが、生徒ひとりひとり大切に育てていただくことを引き続きお願いしたい。(西尾委員)
- ・ 従順な人が多ければ組織はまとまりやすいが、そこからはいいものは生まれてこない。従順な人も必要だが、そうでない部分もある多様性のある人もいた方が組織にとっては好ましい。学校も同じだと思う。そういう意味で「多様性を認めあう」学校教育目標は大切だ。(伊藤(太)委員)
- ・ 日本の高校生は優秀だがそこから先の伸び代が海外の人に比べて少ない。中学生の段階から生徒が自分で考えて育つ様な学校運営を続けて欲しい。(鈴木(滋)委員)

⇒本日の学校経営の説明について委員全員異議なくこれを承認したものとします。(鈴木(滋)議長)

#### (2) いじめ防止対策 (袴田生徒指導主事)

○浜松市立天竜中学校いじめ防止基本方針(令和 5 年度改定版)は天中の HP に掲載している。今のいじめの定義はいじめ防止対策推進法という法律で定義されている。そこには「いじめは心身に苦痛を感じている行為」とあり、以前のように強い者が弱い者を攻撃するとか、一人に対して集団で害を与える等のような人数や立場(強者、弱者)についての規定は一切ない。学校としてはその様な新たな認識のもとで活動している。

いじめ防止の基本的な考え方は「未然防止」「早期発見」「早期対応(適切な対処)」と考えている。「未然防止」については、天中では今年度から生徒会主催でいじめの未然防止や命について考えることをテーマに集会や取組みを持ち、生徒会の生徒からの発信でいじめ防止に取り組んでいる。子供達が子供達でいじめを防止(=いじめを自治)していく活動をしている。またいじめの「早期発見」のために、年 4 回のいじめアンケート(6 月、10 月、12 月、2 月)を行っている。また「早期対応」としては、いじめを発見した時に、以前であれば担任とか学年主任にその情報が行ったが、今はいじめ対策委員会をたちあげ、委員長を校長にしていじめ対策コーディネーター(生徒指導主事)が関係者(約 11~12 名)を招集し、誰がどうするかを決めて学校全体で対応している。

- ・ 些細なことでもいじめ防止委員会は開催されるのか? また開催されたことは有るか? (齋藤委員)

→委員会はすでに随時開催されていて結構些細なことでも開いている。小さなことでも話を進めていくと、自分はここが悪かったとかわかってきて仲直りにつながることもある。(袴田教諭)

- ・以前はふざけ合いのようなことはいじめとはされなかったが、今はそれらを含めていじめとしている。我々委員の側でも認識を改めていく必要があると思う。（鈴木（滋）委員）
- ・いじめの種類はいろいろで、集団でいじめることもあれば個々で些細なことでもめることあると思う。

この些細なことから手を打つことで、重大事になる前に問題を防ぐことができると思う。些細なところで芽を摘む、そして組織で対応していくことは非常にいいことだと思う。（伊藤（太）委員）

→今のいじめの実態はグループ対個人といってもグループは3~4人とかがほとんど、少人数で起こることが多い。我々にとっては目に見えないところで起こる問題、例えばLINEやインスタグラムなどで、大多数で1人をいじめることの方が怖い。今は、殴る蹴るはほとんどない。インターネットやSNSでの問題が多い。（袴田教諭）

- ・いじめの未然防止の中で、ランドデザインにもあるように多様性を認め、そうしたことが醸成されていじめが減ってゆくことが大事なんだということがわかってきた。（匂坂委員）
- ・小学生が集団登校時に後ろからいってカバンを引っ張るようなことをして引っ張られた子がよろけるのを見た。それでいじめるのは止めるよと言ってやったら、これはからかっているんだと言ってきた。これをからかっているとして地域で認めて良いものかどうかかわからない。（米山委員）
- ・「いじめ」と「いじる」の境目が難しく、子供によっても受け止め方は違うと思う。その子のキャラクターによって変わってくるので一人一人の見極めは毎日生徒と接している先生方や親にお任せするしかないと思う。地域のものがそこまで見極めるのは難しい。（鈴木（景）委員）
- ・子供によって受け止め方は違うので、子供達どうしでそれぞれどこまでだったら許せるかとかのコミュニケーションが取れるように仕向けるのが大事だと思う。（匂坂委員）
- ・SNSの情報はどうやってとるのか？（伊藤（武）委員）

→それは被害を受けた生徒からの訴えや、これはやばいのではといった生徒からの相談でわかることが多い。（袴田教諭）

- ・いじめはどうやって情報をとるかが大事だと思う。そう考えると小学生のころから情報をとっていくのが大事かなと思う。（伊藤（武）委員）
- ・娘と母親の会話で「あの人はやばい」といったような会話を聞いて、もし娘がその話を友達と同じような感想を3,4人で共有していると娘の方が加害者になってしまうのではということに危惧している。（西尾委員）

→いじめの問題で困るのは加害者が被害者になることで、データの的にもそうしたケースが多いと言われている。そうした時にどこでそれに気づくかが大切になる。学校は年4回のいじめアンケートと日々の生活記録の中からいじめの初期情報を得ているが、全て見えているわけではない。些細なことでもご家庭から相談していただくことをお願いしたい。（袴田教諭）

- ・最近の印象はまず子供が変わっている。それは環境が変わっているということもあるが、良いか悪いかは別にして今の子供は非常に繊細。同じことでも子供によって傷つく子もそうでない子もいる。それで子供達にはどこまで言ったら人は傷つくのかを、子どもなりに考えさせるようにしている。他方子供が考え込んでしまって、何もできない、びくびくして何も言えないようにはしたくない。そのバランス取りが難しい。もう一つ難しいなと思うのは、我が子がいじめの被害者、あるいは加害者になったと言った途端に、親は加害者の親にも被害者の親にもなってしまう。特に加害者の親になってしまうとその親はとても辛い。そんな時に親が悪いのではなくて子供なんだというように言っている。それで問題がおきた時は加害者の親にも被害者の親にも知恵を貸してほしいと言っている。但し、うまく言わないと言った瞬間に親は誤解して学校は敵とってしまうこともある。そんなところが難しいなと思っている。とはいえこんなところまでやっているのは日本だけかもし

れない。少しずつでも子供達で考えさせる教育を進めているので今後ともご支援を賜りたい。（野秋校長）

### （3）職場体験（2年学年主任）

- 今年度10月19日（木）、20日（金）で職場体験学習を計画している。またコロナも大分緩和されてきたので、今年度は職場訪問から職場体験に戻して実施したいと考えている。参加者は2年生の201名。この10月の職場体験に向けて、①6月にビジネスマナー、②7月または9月に講師をお願いしての職業講話（講師は6～8名で想定）を計画している。（鳥居学年主任）
- ・募集のやり方については昨年と同様の手順（自治会連合会経由で各自治会で募集）を進めたい。また募集に際しての活動内容について事業所にどんなことを望んでいるか、もう少し具体的に書いて頂けるとありがたい。（伊藤（太）コーディネーター）
- ・①は6月、②は7月なので急いで人選する必要があると思うが、皆さんに心当たりはあるか確認したい。またこれらの取りまとめを誰にするか決めたいが、ご意見を伺いたい（鈴木（滋）議長）
- ・職業講話はできないかもしれないが、職場体験については提携する企業もたくさんあるので紹介することは可能かと思う。（伊藤（武）委員）
- ・去年企画検討したときに、スクールソーシャルワーカーの竹田さんが、こんな仕事があると伝えたいので講師をやってもいいと言っていた。お願いしてはと思う。あとコミュニティソーシャルワーカーの伊藤翼さんも同じくやりたいと言っていた。（鈴木（景）委員）
- ・①と②についての情報は鳥居先生まで直接伝えていただき、③は伊藤（太）さんに取りまとめをお願いしたい。（鈴木（滋）議長）
- ・社会人の意識とマナーについて考えるとプロサッカー選手の鈴木海音選手はどうかと思ったが、プロの世界にいて且つ天中の卒業生、生徒とそんなに歳もはなれていない、こうした身近な人なのでどうかと思った。ただシーズン中なのでそこは考えないといけないが、（匂坂委員）
- ・しゃべりがうまい人とかは心当たりはないでしょうか？（野秋校長）
- ・未来プロジェクトの人を呼ぶのもいいと思うが、いかがでしょうか？（伊藤（武）委員）
- ・会議が終わったら鳥居先生と会話してほしい。（鈴木（滋）議長）
- ・訪問時に「事業所にこういう内容の体験をさせてほしい」というような例を、業種ごとでいいので提示して頂けると受け入れる会社側も検討しやすいと思う。（伊藤（太）コーディネーター）
- ・学区外でもいいのならイオンの北にある五味ハ珍の工場もいいのでは？また教育実習と重なるかもしれないが幼稚園や保育園での体験やラーメン屋さんもいいのでは？（鈴木（景）委員）
- ・飲食もいいがその他の生徒が知らない職業を教えてあげるのもいいのでは？（伊藤（武）委員）

### （4）休日の学校部活動の地域移行について

- 天中には、柔道以外の部活はほとんどある。また指導できる先生は、サッカー、野球、バスケ（男女）、バレー、剣道、吹奏楽、美術はいるが、その他の部活でテニスや卓球、水泳は未経験者が担当している。また当初は令和7年で地域に完全に移行するとしていたが、今は令和7年までを地域移行の改革推進期間となりトーンダウンしている。また将来部活動に入らない子供達が増えてゆく中で天中単独で部活動をやっていけない部も出てくる。競技によっては合同チームを作れば良いが、そうした中でこれからどのように部活動を運営していったらいいのかという様なことも考えてほしい。地域移行にあたって指導者でどんな人がいるのかといったことも今後議論していきたい。（野秋校長）
- ・まだ全然決まっていない中で何をしましょうではなく国や市の方針が決まってきた段階で会話を進めたい。（鈴木（滋）議長）

・市の方針は5月以降に出てくる模様。（野秋校長）

(5) 夢育やらまいか事業について

○天竜中学校の夢育やらまいか事業の今年度予算には、CS（コミュニティースクール）関係で支出できる分が加算されている。また予算書作成にあたり、夢育やらまいか事業に対する意見書を天竜中学校運営協議会の鈴木滋芳会長名で、夢をはぐくむ学校づくり推進協議会代表の西尾和史会長宛に提出しているのでご承知おき願いたい。会議資料参照（神谷教頭）

・夢育やらまいか事業に対する意見書の提出について委員からの異議はなく了承されたものとする。  
（鈴木（滋）議長）

熟議については以上です。

その他（司会は神谷教頭）

(1) 生徒のボランティア活動参加について

○生徒の参加募集の仕組みを昨年度立ち上げたが、今年度もCSコーディネーターの伊藤（太）さんを介しての手続きを進める。要望書は「依頼内容の事前説明の要否」を追加しているが、それ以外は昨年と同じ内容で進める。（神谷教頭）

(2) 通学用カバンの変更について

来年度の進入生から通学用カバンを従来の横長タイプから縦長タイプに変更する準備をしている。他校でも同様の動きがあり、現在5種類のサンプルを取り寄せ関係者の意見を確認中。（袴田生徒指導主事）

今後の予定

次回の学校運営協議会は6月下旬から7月上旬で計画している。日程は決まり次第会議案内でお伝えしたい。（神谷教頭）